

平成30年度【研究指導】受入実績

■概要

学生・院生の研究利用・指導として、菅平高原実験所では27研究課題(学外:12、学内:15)、八ヶ岳演習林では23研究課題(学外:7、学内:16)、井川演習林では6研究課題(学外:3、学内:3)、筑波実験林では8研究課題(学外:0、学内:8)を受け入れた。

■受入実績一覧

学外学生の研究課題のみ記入。

研究課題名	概要
1 急斜面における土砂移動(落石等)の現地観測	静岡大学総合科学技術研究科の院生と教員による研究利用。(4/23,5/2,21,6/4,19,8/31,11/5,26,30,12/3,7,3/25,27)(井川演習林)
2 ナイフマーキング法による樹木の成長量調査	静岡大学総合科学技術研究科の院生と教員による研究利用。(4/23,5/21,6/4)(井川演習林)
3 標高に応じたアセビのシュート形態の変化	名城大学農学部の学生と教員による研究利用。(5/23-25,9/10-17)(井川演習林)
4 冷温帯落葉広葉樹代償林における蒸発散量の直接計測	東京農業大学・地域環境科学部森林総合科学科学部・B4とB3、及び教員の研究利用(2名×6日、1名×4日)(2名×2日)(2名×2日)(1名×1日)(4名×2日)(1名×1日)(2名×1日)(5名×2日)(2日×6名)(2名×2日)(2名×2日)(4名×2日)(5名×2日)(2名×2日)(7名×2日)(八ヶ岳演習林)
5 ドローンを用いた航空測量による森林資源量の測定	富山大学・研究推進機構極東地域研究センターの教員及び、理工学教育部のM1院生による研究利用(3名×2日)(2名×3日)(八ヶ岳演習林)
6 川上演習林におけるダケカンバ林の森林構造解析	信州大学・農学部の教員と農学研究科のM2院生、農学部のB4生、筑波大学・生命環境系の教員による共同研究利用(4名×3日)(3名×3日)(3名×3日)(3名×2日)(2名×2日)(八ヶ岳演習林)
7 全天球画像を活用した緑地の立体構造把握に関する研究	東京都環境科学研究所の研究員と千葉大学・園芸学部B4による研究利用(1名×1日)(1名×1日)(8名×4日)(八ヶ岳演習林)
8 枯死木依存性早節足動物の調査及びキノコの採集	横浜国立大学・環境情報研究院・教員と、環境情報学府・M1、理工学部・B4による研究利用(2名×1日)(3名×2日)(八ヶ岳演習林)
9 野生クリの遺伝的多様性を解析するため	農研機構果樹茶業研究部門・研究員、岡山理科大学・生物地球学部の教員による研究利用(2名×1日)(八ヶ岳演習林)
10 ヤマネに関する卒業研究の打ち合わせと演習林見学	東京農業大学農学部の教員と農学部野生動物学研究室の院生及び農学部野生動物学研究室学部の学部生による利用(9名×2日)(八ヶ岳演習林)
11 ハナバチ類及び食性甲虫の採集(昆虫便乗性及び寄生性線虫採取のため)	(国研)森林研究・整備機構の研究員と鹿児島大学大学院連合農院生による研究利用。線虫類の多様性を明らかにし、有用モデル生物種の抽出を行うとともに、これらの形態的、生態的、系統的特徴を明らかにしたうえで、的分子生理学、発生生物学、ゲノム科学分野へ研究材料として受け渡す。(2名×2日)(4月18日-19日)(3名×3日)(7月3日-5日)(4名×3日)(5月31日-6月2日)(菅平高原実験所)
12 南太平洋のヤエヤマヒルギ属の遺伝構造解析および集団動態推定	サンパウロ州立パリウスタ大学(ブラジル)学生による研究利用。南太平洋のヤエヤマヒルギ属の遺伝構造および集団動態を解明する。(1名×60日)(5月2日-6月30日)(1名×3日)(2名×2日)(9月16日-10月15日)(1名×20日)(7月1日-20日)(菅平高原実験所)

13	スキー場草原における 草原植物の埋土種子 調査及び花形質の測定	神戸大学発達科学部院生による研究利用。近年減少傾向にある草原環境の代替地としてスキー場草原に注目し、特に古くから管理が継続して行われてきた草原では他のスキー場草原とは異なる植生を持つことを検証する。今年は草原生種の種子散布能力等の形質に着目して、メカニズムの解明を目指す。(1名×5日)(5月6日-10日)(1名×2日)(7月12日-13日)(菅平高原実験所)
14	ケンランカマキリ、サイコ クカマアシムシの発生学 的研究	愛媛大学大学院理工学研究科院生による研究利用。ケンランカマキリ・サイコクカマアシムシの発生学的記載、系統学的考察を行う。(1名×2日)(5月17日-18日)(11月30日-12月1日)(菅平高原実験所)
15	植物群集の種組成が異 なるスキー場の送粉群 集構造の比較」に伴う調 査	富山大学大学院理工学研究部教員、同大学理学部学生及び、神戸大学大学院人間発達環境学研究部教員ほかによる研究利用。外来植物種の割合が多いスキー場と在来植物種の割合が多いスキー場の、送粉者群集の分類群組成、植物群集の花形質組成、各送粉者の訪花ニッチを比較することで、外来植物種の移入が送粉系に与える影響を把握する。(5名×3日)(5月23日-25日)(3名×3日)(7月9日-11日)(菅平高原実験所)
16	開花フェノロジーの異 なる植物標本を対象に した、資源の獲得、成 長・繁殖への投資に 関する研究	奈良女子大学研究院教員及び同大学大学院院生による研究利用。開花フェノロジーの異なる植物標本を対象にした、資源の獲得、成長・繁殖への投資に関する研究。(1名×3日)(1名×27日)(6月22日-7月29日)(2名×3日)(1名×15日)(1名×49日)(7月16日-9月2日)(菅平高原実験所)
17	論文執筆などの研究 活動	北海道大学地球環境科学研究員博士研究員による研究利用。1. 送粉共生系における花蜜酵母の生態的機能および新規酵母種のゲノム解析。2. 幅広い標高帯に渡って分布するミヤマハタザオの分布変遷の歴史および適応進化のプロセスの解明。(1名×92日)(7月1日-9月30日)(菅平高原実験所)
18	園内の植物寄生菌の 収集と分離及び同定	東京農業大学国際農業開発学科教員及び学生による研究利用。園内で観察される植物寄生菌を収集し、分離および同定を行う。(3名×2日)(9月13日-14日)(菅平高原実験所)
19	熱帯性海流分散植物 を対象とした集団遺 伝学に関する解析 手法・理論について の指導ほか	琉球大学熱帯生物園研究センター院生による研究利用。汎熱帯海流散布植物の集団遺伝構造および集団動態推定の解析および論文執筆。(1名×17日)(10月11日-27日)(菅平高原実験所)
20	菅平エリアの土壌調 査	滋賀県立大学環境科学部教員、学生、神戸大学農学部学生及び筑波大学生物学類学生による研究利用。菅平エリアに広く分布する黒色土壌と植生(過去の履歴を含め)との関係を明らかにする。(4名×4日)(1名×3日)(11月9日-12日)(菅平高原実験所)
21	シロアリモドキ目の 発生学的研究	愛媛大学大学院理工学研究科院生による研究利用。シロアリモドキ目の発生学的研究。(1名×5日)(12月16日-20日)(菅平高原実験所)
22	インド西ガーツ山脈に 分布するクロコショウ の遺伝構造および集 団動態の歴史の 評価	Ashoka Trust for Research in Ecology and the Environmentの院生による利用。(1名×19日)(3月13日-31日)(菅平高原実験所)